

## International Congress of Entomology XXV 2016 に参加して

広域システム科学系 博士課程 3年 佐賀達矢

私は、2016年9月にアメリカ合衆国フロリダ州オーランドで開かれた”International Congress of Entomology XXV 2016”に国際研究集会渡航助成制度を利用して参加しました。この大会には昆虫に関する純粋生物学から応用科学までの様々な分野から研究者が集まり、大会の規模が非常に大きいことが特徴です(今大会の参加者 6682 名、講演件数 5396 件)。今回、私は、クロスズメバチ属の姉妹種が、互いに社会寄生をしていることの報告とこれまでの理論的な背景から、両種の社会寄生の進化背景に関する発表を行いました(論文: <http://www.springer.com/-/0/AVfPlkNnreWCBzsoFvsv>)。初めての国際学会での発表であり、英語力にも自信がなく、発表前は緊張しましたが、発表後には何件か質問や有益なコメントをもらうことができました。一方で、関連分野の集会、及び懇親会にも積極的に参加しましたが、集団での会話についていくための英語力が私には不足しており、十分に議論の輪に入ることができず、心残りです。

学会の後には、フロリダからバーモントに移動して、アリの研究で著名なバーモント大学の Sara Helms Cahan 博士の研究室で自身の博士論文研究(シダクロスズメバチの繁殖生態学)について発表してきました。ここでは、今後の研究に生かせる遺伝解析技術の手法等、多くの有益な助言をもらえました。また、私の研究分野と非常に近い研究をしているアメリカ自然史博物館(ニューヨーク)の James Michael Carpenter 博士と Federico Lopez-Osorio 博士を紹介していただきました。そして、バーモントからニューヨークに移動し、J.M. Carpenter 研究室でも自身の研究紹介を行いました。そこでさらに、カリフォルニア大学リバーサイド校の Kevin Loope 博士も紹介していただきました。これらの研究者の研究は、私の出版した論文や博士論文中でも重要な研究として引用しており、その方たちと研究について直接議論できたことは、大変幸せでした。また、彼らに、日本はスズメバチ亜科のハチが豊富に生息していてスズメバチ研究のメッカだと言われ、身の引き締まる思いがしました。今回の渡航助成のおかげで、自身の研究に関してアメリカの研究者と議論ができただけでなく、アメリカの研究者とのネットワークも構築することができました。今後は、自らの研究はもちろん、国際語である英語の会話能力向上にも力を注いでいきたいと思っています。



左) International Congress of Entomology 開会式

中) バーモント大学 Sara Helms Cahan 研究室のラボミーティング (左から 3 番目: Sara, 右端: 佐賀)

右)アメリカ自然史博物館(素晴らしい博物館です。ニューヨークに行く際にはぜひ訪れてください)